

## 「#40避難場所」を活用した教室活動案

このダイアログの目標「人が話した内容を、別の人にわかりやすく説明しなおす」の達成を目指した活動案です。このダイアログでは、何らかの理由（例えば、言葉が通じないなど）でわかりあえない関係性の間を取り持つ「仲介活動」を取り上げています。具体的には、日本語がまだ十分ではない後輩などに対してコミュニケーションの手助けをするための方法を学ぶ活動案となっており、次ページの授業の流れのように行います。また、ダイアログ教材を事前課題とすることで、ダイアログの内容理解は事前課題を通して行い、授業内では仲介活動の理解に焦点を置くところに特徴があります。

### <ダイアログ/Dialogue>

- 大家 : もし地震が起きたら、自治体が指定した避難場所に逃げてくださいね。
- 新しい住人 : えっと…。にげ…？
- ロンさん : ★1 （指で公園を指しながら）もし、地震があったら、あそこに行きます。あの公園です。
- 新しい住人 : あー。
- 大家 : 日本は昔から地震が多いけど、最近では、温暖化の影響かなんかで雨が降って川が氾濫しちゃったりもするでしょう？だからね、災害に備えて避難場所は知っておかなきゃ。
- 新しい住人 : はあ…。もう一度…。
- ロン : ★2 地震、日本は多いですね。それから、（ジェスチャーをしながら）雨がたくさん降ると、川から水がながれます。危ないですから、避難場所、Shelter、覚えてくださいね。
- 新しい住人 : あー、はい、避難場所。



## &lt;授業の流れ&gt;

事前課題	<p>【ダイアログ】（図 5）の場面、語彙を確認したうえで、【ダイアログ】を読む。以下の内容理解確認の質問に答える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大家さんが一番伝えたいことはなんですか</li> <li>・ 災害が起きたら、ロンさんたちはどこへ行きますか</li> </ul>
ウォーミングアップ（導入）	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 事前課題の確認</li> <li>② 今日のトピック・授業内容の紹介 ロンさんのように、日本語がまだ十分でない人を手助けした経験があるか、どのように手助けしたか</li> <li>③ Can-do の確認 人が話した内容を、別の人にわかりやすく説明しなおす (MY Can-do: 元 CEFR 仲介_B1)</li> </ol>
仲介活動の理解	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 仲介活動を確認するために【ダイアログ】を聞く（複数回）</li> <li>② わかりやすく説明しなおすためにロンさんがどんな工夫をしているかを聞き、わかった仲介活動について話し合う（ペア）</li> <li>③ スクリプトを見て、仲介活動にあたる部分（ジェスチャー、言い換え、他の外国語を用いる）がどこか話し合う（ペア→全体）</li> <li>④ 大家さんの言葉をわかりやすく説明しなおす練習をし（ペア）、全体で確認する</li> </ol>
仲介活動の実践	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「運転見合わせ」の車内放送(2022年11月21日公開のニュースに付随する【ダイアログ】)を聞いて、場面を確認する（全体）</li> <li>② 車内放送の内容をわかりやすく伝えるために、どんな工夫ができるか考え（個人）、話し合う（ペア）</li> <li>③ 車内放送をわかりやすく説明しなおす練習をし、おたがいにフィードバックする（ペア）</li> <li>④ 発表（グループまたは全体で）</li> <li>⑤ Can-do の達成の確認</li> </ol>

下記参考資料より一部改変して掲載しています。

## 参考資料

菊岡由夏・山本実佳・須摩亜由子・西島阿弥子・山岸愛美・湯本かほり（2024）「JF 日本語教育スタンダードを活用した生活者向けダイアログ教材の開発と活用－「Learn Japanese from the News」の関連コンテンツとして－」『国際交流基金日本語教育論集』20号、pp. 37-49.